

第廿九回文科學術談話會記事

何となく物足りない、もつとどうかして欲しい、とはもうとくから私共會員の間に、繰り返されて居た聲でありました。この物足りなさこの要求とが、だんだん深くなり強くなつて來ました時、そこには當然何等かの新しい或るものが表はれて來なければなりません。この物足りなさが充たされ、この要求が實現される時は一体いつでせう、それは此の會が唯所謂文科會として遠くから眺めて居られたり、文科部の生徒によつて成り立つて居るべき筈の、一つの會として僅に其時々と思ひ起される位の事なしに、全く生徒全体のものとなつた時、會員の全体の其めいめいの頭の中に、いつも此の會が自分のものとして生きて居る時ではないでせうか。そしてさうなつた時初めて會と會員と云ふ二つの離れ離れのものになしに、しつくりと結び付いた一つの生きた力になるのでないでせうか。どうぞさうなりたい、さうしたいと云ふ切な希望を持って大正三年五月十六日(土曜日)午後一時から、講堂で開催いたしました。

まず、開會前の會場は強い豫期と好奇との氣分にみちて居りました、豫定通り正一時に先づ垣内先生の委員として、就任の辭を兼ねた開會の挨拶がありまして、講演に移りました。

一、墨西哥(一時十五分より)
非常に落ち着いた態度と、明快な音調とは、たださへ興味ある此の問題に一層活氣と感興とを添へました、そしてこのやうな精確且熱心な研究の態度を尊く感じました。

一、英語朗讀(二時五分より)
英語朗讀は之迄例のなかつた事でした丈、一層大きな興味期待とを以て迎へられました、一体今度の會は委員などが變つた爲、凡ての様子もはつきりせず、ごたごたして居りました爲、出演なさる方などは充分御研究になる余裕を御持ちになるとは出來ないであらうと、お氣の毒に存じて居りました程でしたのに、あれ丈けになされたは美事の成功と云つてよいと存しました、又此の朗讀について岡田先生の御指導を得た事を深く感謝いたします。

一、現代文明と精神生活(二時十七分より)

た。左の順序で、

- | | |
|--------------|------------|
| 一墨 西 哥 | 文二ノ三 須田しげ代 |
| 一倫敦(英文朗讀) | 文一ノ三 佐藤 ヤス |
| 一現代の文明と精神生活 | 得能 先生 |
| 一大海の日出(國文朗讀) | 文一ノ二 佐治 キヌ |
| 一伯夷傳(漢文朗讀) | 研究科 竹田 みち |
| 一北邊の古謠 | 文一ノ四 小倉 千年 |
| 一批評 | |

今日の會には右の講演に關係のある、墨西哥に關する各種の參考書、それから其風俗の一斑を知る事の出來る繪葉書、人形、其外の日用器具、アイヌに關する種々な書物を拜借いたしましたして陳列することが出來ました、これは皆西村先生の御好意と御盡力によつて得た喜で御座いました。校長先生、關根先生、西村先生、岡田先生、乙部先生、細田先生等が御忙しい所をわざわざ御出席下さいました事と、數名の賛助員の方が御來會下さいました事は、私共にとりましては非常に力強い喜で御座いました。殊に今日は得能先生の御話が、又今迄に例のなかつた朗讀が、私共の興味と好奇と期待の心を一層深くさせ

垣内先生の御紹介について登壇せられた得能先生は私共々々知りたいたいと求めながら而も容易に得ないでゐる現代思潮の全体に互つて、明快にさうして極めて簡易に御説き下さいました。私共はこのやうな御深切な御講話、有益な御講話を伺ふ事の出來た事を非常にうれしく有がたく、感謝いたして居ります。かうした機會のあります度に、知らねばならぬ而も知る事の出來ないでゐる世界が、一步一步拓かれて行くのを感じた時の喜びは何に譬へる事も出來ないもので御座います。

一、國文朗讀(三時十二分より)
次の漢文朗讀と共にこれも亦今迄に例のない事でありました、其文章全體を理解し且其中に表はれてゐる景物を、其處に描き出す事の出來るやうに朗讀する事は、余り容易い事ではないでしょう、今日のこの文章などは己に自然と人生、現代文鈔などで大抵の方は熟知して居られますし、又初めてとしては比較的落ち着いて、美しく優しく御朗讀になりました。而し六ヶ敷丈それ丈研究の余地はあると存じます、

一、漢文朗讀(三時十五分より)

朗讀せらるゝ前に先づこの傳は禮讓の徳高く、大義名分に明かであつた事を美なりとして、書かれたのであるといふこの傳の由來、及びこの文が直接間接後世の風教上に及ぼした影響、感化の至大である事を御説きになり、我が大日本史の如き其起因はこの傳にあると云ふ事から、進んで明治維新の大業も亦此の傳などの影響感化を蒙つた結果であると論斷を下されまして其大意を説明され、やがて朗讀に御入りになりました、其嚴然たる御態度其朗々たる御聲、我知らず襟かき合す思がありました。又あれ丈の長文を何の苦もなく、すら／＼と御暗誦遊ばされた事に就ては、唯敬服の外は御座りません。

一、北邊の古謠(三時三十七分より)

あの極く静なゆるやかな言語と、うるほひを持つた優しい御聲とは、この濃やかな情緒に満ちた御話にふさはしく、私共の耳に快く響きをして私共の氣分は、いつとなく非常に物なつかしいなごみを覺えて來るのでした。演者も數々繰り返された様に、冷く荒れた北國の淋しい山野に、すさみ切つた毎日

を送る荒夷蝦としてより外は、考へられなかつた彼等がこの様にやさしい純な情緒を持つて居た事を知りました時私共は實際驚と好奇の眼をみ張つたのでした。

かうして今日の豫定は四時十分に終りました、此の時部長は再び立つてこの會に就ての御批評と御教示を乞はれました。

先づ立たれた校長先生は今日の會合に就いて、過分の讃辭を賜はりました、我々同人は幹事の任を承りましてから數回協議して計畫を致しましたが、本日本會の進み行く間にしも竊に其の任を全うし克はざらん事を恐れて、誠に會長閣下始め會員諸姉に相濟まぬ事と存じて居りましたのに、此の御辭を拜承しました時は重荷の下りたやうな云ひ知れぬ感に打たれたので御座います。我々同人甚だ行届かぬもののみであります。今後とも是非奮勵して、本會の爲に盡さねばならぬと固く決心いたしました。次に西村先生は「今日は垣内先生を初め委員の方の骨折りで、會長讃辭もあつたやうに。自分も大に愉快に感じた。今日の話の内二三間違つたと思つた所、不

充分だと思つた所を訂正し附加し、且つ陳列品に就て一寸一言述べやう。メキシコ境界の所で英領ボンジュラスと云ふべきを、ボンジセリーと云ひ又ヘーラクルースをベラクルーゼと云つたのは誤である、それから産業の所でマツキーと云ふのは説明がないと、想像が出来ないのであらうがこれは陳列品の中にある人形の水汲男の、被つて居る帽子がそれで出來てゐるのである、この陳列品に就ては自分も殆んど初めて見たのだし、話もつい聞く事が出來なかつたので今日は紹介しかねる、書物には獨逸の醫學者アレキサンダーフォンボルトの著書などがある、アイヌの話があるのでアイヌに關する古い書物も、地學協會所藏の中から三分の一ほど借りて來た、パチエラーの字彙、金澤さんと神保さんの字引もあり、野上さんのアイヌ語の會話、新井白石の書いたものもある」と御述べになりました。最後に垣内先生は立つて閉會の辭を述べられました。

「今日に四時までの豫定であつたが十分ほどのびた。これから後はもつと短い時間に、もつと充實したもつと引締つたものにし度いと思つてゐる。

得能先生の御話は(批評かましくはあるが)つまり今日の現代思潮の中心問題を御話されたものと聞いてよからう、近く九月にはオイケンも來ると聞く、いろ／＼議論も生ずる事と思ふが、今日の御話は其準備として考へてよいと思ふ。

「北邊の古謠」と「墨西哥」とは、其問題の性質上話し方が全然反對のものである。そしてあの墨西哥の如き大なる問題を捉へて説く場合に、今日の如く先づ是を幾段かに分けて、一々夫れに従つて詳説すると云ふ事は適當な方法である、要は段落の方法の巧拙に由つて話が生きて聞えるのである。又「北邊の古謠」の如きは極めて細かい問題である、殊に或る一つの本に就て其内容を話すと云ふ事は、可成り困難な事であるが今日取られた如く、先づ本の体裁を説明しそして内容と形式とに分けられた方法も、かうした問題を取扱ふには至當であると思ふ、凡てが大体に於て希望通りであつた。かういふ題材の話し方はこのタイプによつてよいと思ふが、更に一層研究されんことを望む。

國語の方は其の速度も讀み方も平生自分の取つて

居るのと同程度である、なほ讀方の方法に就てはま
だ研究の餘地は充分にある、そしてそれはかく
の如き會合に於て大に研究すべきものであると思
ふ」と。

最後に本日特に來會を賜はりたる諸先生に謝し、
又貴重なる陳列品を貸與せられました西村教授に厚
く感謝いたします。午後四時半、會はいろ／＼の感
興と期待とを會員全体の心の中に漲らしつゝ、微雨蕭
々たる裡に閉されました。(T N)

會計報告 第八回

収入金額 九四、五八

前より繰越高

内譯 四二、一二
一九、二六 會員よりの會誌代

三二、二〇 賛助員三十七人分會費

一、〇〇 岡田先生より御寄附

支出金額 四六、六七

會誌八號印刷代

内譯 二七、九三
二、八〇 全 發送代

三、〇〇 得能先生御禮として
一二、九四 其の他雜費

差引殘高 四七、九一

齋藤みね

明治四十四年、大正元、二、三年度分納附者一名

常光 藁

大正二、三年度分納附者一名 櫻井藤枝

飯島孝子 尾崎よし 成瀬よし 岩崎まつしま

大正元二年度分納附者五名

服部松代

大正三年度分納附者 二九名

大正三年度卒業生(二六名) 村田よしを

島津みち 森とみ

入會者(文科一年生)三十五名

市原 すみ 池田 ミヲ

星野 樂 小笠原チヤツ

小邦 あや 渡邊 ヨキ

勝俣和歌子 梓山コムメ

田中 ヤエ 粒木 つね

中村 たま 植野 キヨ 野平 ふゆ
葛野 龍 矢谷 秀 山内 仁子
山口 さき 眞殿 つる 松田 じよ
小山 恒子 赤木 嘉子 宮崎 豊子
志賀 春 志田 登代 篠崎 益枝
重松 徳子 重松 ムラ 平山 ひさ
平山 壽滿 土方 登茂

岡本 節 金田 マキ 田邊 馨
田中 ヤス 相馬 芳枝 中原伊久野
内田 ゆき 大澤キミヨ 山内 キイ
山野スミレ 柳下 三己 前島 美子
古賀マツヨ 佐々木 清 齋藤たまを
鹽川 國 師岡ふみよ

退會者

服部 松代 大正三年三月卅一日

常光 藁 大正三年五月五日

三宅 こと 大正三年五月五日

小堀 くま 大正三年五月十八日

宮川 よしえ 大正三年五月十八日

宿所變更

島津 道 (現住所) 長野縣上田町海野町

(舊住所全縣上田高女)

新賛助員 二十六名

稻垣 のぶ 池邊 芳江 初鹿野とみ

本田よしえ 土肥ヒサヘ 千野 テフ

小谷 信子 尾臺 はる 岡田 いし